

授業改善の視点（主体的・対話的で深い学び）

主

主体的な学び
をしている時の
知的障害の
ある**児童生徒**
の**具体の姿**
(例)

[学ぶことに興味や関心を持っている姿]

- ・ 教師や友達の活動，提示した物を目で追ったり触ろうとしたりしている。
- ・ 教師や友達の活動をまねたり，一緒に取り組んだりしている。
- ・ 積極的な発言や「なぜ」「知りたい」などの発言が見られる。

[自己のキャリア形成の方向性と関連付けている姿]

- ・ 「もっとしたい」「できるようになりたい」「できるようになった」という思いを表現している。

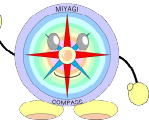
指導目標や評価規準を設定するときの
ヒントにしてください。

[見通しを持っている姿]

- ・ 次の活動をイメージした行動をしている。

[粘り強く取り組んでいる姿]

- ・ 課題を繰り返し行ったり，粘り強く取り組んだりしている。
- ・ もっと良い方法を探ろうとしたり，解決方法を考えたりしている姿が見られる。



[自己の学習活動を振り返って次につなげる姿]

- ・ 自分の良かったところ，次にやってみたいことを話したり，表現したりしている。

[題材の工夫]

- ・ 得意なことから始め，もう少しでできそうなことに挑戦できるようにする。
- ・ 児童生徒の生活経験などから，具体的にイメージできる題材を用意する。

[提示の工夫]

- ・ 授業の導入で，期待を持たせる工夫をする。
- ・ 見え方に配慮した位置や大きさにしたり，タイミングや間，見せ方を工夫したりする。
- ・ 言葉だけでなく，写真や具体物を提示する。

指導方法を考えるときの
ヒントにしてください。

[自己選択・自己決定の場]

- ・ いくつかのものから，
選択できるような題材にする。



授業改善に向
けた**教師の手**
立て (例)

[キャリア形成の視点]

- ・ 憧れの仕事，身近な仕事，などに触れる機会を多く設け，その仕事に就くにはどんな力を身に付けたらよいか考えられるようにする。

[見通しを持たせる工夫]

- ・ 授業の導入での見通しが持たせることができるように，授業の内容・順番を視覚化する。
- ・ 授業の最後に振り返りカードなどで，その時間の振り返りと次の目標を関連付けていく。
- ・ 単元（題材）や授業の中で身に付けたい力（めあて・目標）を明確に示し，意識付けする。

[時間の確保]

- ・ 児童生徒の考える時間，活動時間を確保する。

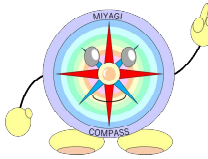
[称賛の工夫]

- ・ できたら，称賛を繰り返したり，シールなどで賞賛を可視化したりする。

<p style="text-align: center;">対</p> <p>対話的な学び をしている時 の知的障害の ある児童生徒 の具体の姿 (例)</p>	<p>[子供同士の協働を通じ、自己の考えを広げ深めている姿]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達が話しているところを見たり、聞いたり、うなずいたりしている。 ・ 他の児童生徒の作品に関心を持っている。 ・ 児童生徒同士が話し合ったり、意見の交換をしたりしている。 ・ 話合いで、自分の考えを広げている。 <p>[教職員との対話を通じ、自己の考えを広げ深めている姿]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員が話しているところを見たり、言葉を聞いたりしている。 ・ 教職員の質問に答えたり、対話したりしている。 <p>[地域の人との対話を通じ、自己の考えを広げ深めている姿]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の人や自分に関わりのある人と触れ合ったり、会話したりしている。 <p>[先哲の考え方を手掛かりに考えている姿]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 映像や本を通して、先人や作者の思いや考えに触れている。 ・ 映像や本を通して、登場人物の思いや行動に触れている。 ・ 教職員や関わりのある人との対話を通じて、考えている。 <p>[対話を通じ自己の考えを広げ深めている姿]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発語はないが、音や匂い、触覚などの外的な刺激に反応している。 ・ 友達や教職員・地域の人との対話を通じて、自分の考えを広げ深めている。
<p>授業改善に向 けた教師の手 立て(例)</p>	<p>[表現の方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 考えを音声言語や文字で表現するのが難しい場合は、表情や言葉を表すカードやICTを用いる。 ・ 言葉だけでなく、音や絵等の作品など様々な表現方法を取り入れる。 ・ 感じたことを、拍手の数や動作、ジェスチャーで表現し合う。 <p>[選択の機会の設定]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 語彙が少ない場合は、いくつかの言葉を示し、そこから選択できるようにする。 ・ いくつかの選択肢から「みんなですることを決めよう」と選べるようにする。 <p>[感受の仕方]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 互いの学ぶ姿や作品が見えるようにする。 ・ 考えや思いを伝え合う活動を取り入れる。 <p>[場の設定]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 買い物学習、職場訪問など多くの人と触れ合える機会を設ける。 ・ ゲストティーチャーとして、地域の人と触れ合えるような機会を設ける。 <p>[教材の工夫]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒の段階に応じて関心を抱きやすい教材を用意する。 ・ 季節や時期に関する先哲の言葉やエピソードなどを紹介する。 <p>[言語化]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発語が厳しいときは、教師が児童生徒の考えを代弁したり、言語化したりする。 ・ 微細な変化も取り上げ、言語化する。

<p style="text-align: center;">深</p> <p>深い学びをしている時の知的障害のある児童生徒の具体の姿（例）</p>	<p>[各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせている姿]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学んだことを働かせながら生活の中で生かそうとしている。 ・ 学んだことを生活の中で働かせている。 <p>[知識を相互に関連付けてより深く理解している姿]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学んだことを次の授業や活動に生かしている。 ・ 友達と話し合い、よりよい考えを持つ。 <p>[情報を精査して考えを形成している姿]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いくつかの情報を精査して、自分の考えを持つ。 ・ 習得した知識を結び付けて、社会の中で生きて働く力を身に付ける。 <p>[問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かおうとしている姿]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 問題や課題の解決策を考える。 ・ 新しい方法を考えている。
<p>授業改善に向けた教師の手立て（例）</p>	<p>[教材の工夫]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習したことを生活の中で生かせるように、掲示物や用具に工夫をする。 <p>[見方・考え方]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各教科等の見方・考え方を働かせることの学習場面を、計画的に設定する。 <p>[日常生活との関連]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 季節や行事の中で学んだことを発揮できる機会を、意図的に設ける。 ・ 児童生徒が日常生活の中で学んだことを生かせたときに、称賛し、意欲を付けていく。 ・ 学んだことを他の教員や家庭と連携して、他教科や日常生活と関連付ける。 <p>[発問の工夫]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学んだことや発展したことに出会ったときは「どうしたらいいかな」と投げ掛ける。 ・ 校内の植物や季節の掲示物などに変化があったときに「なぜかな」「どうしてかな」と投げ掛ける。

（国立教育政策研究所「主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点について」、独立行政法人教職員支援機構「アクティブ・ラーニング研修プログラムモデル～主体的・対話的で深い学びの実現のために～」を基に作成）



特支小中学学習指導要領解説総則編 p. 8 に「**深い学びの鍵として『見方・考え方』を働かせることが重要になる**」とあります。各教科の見方・考え方は、その教科等ならではの物事を捉える考え方です。児童生徒が学習や人生において、「見方・考え方」を自在に働かせることができるようにすることが大切です。